安藤　哲也（あんどう てつや）

1962年東京生まれ。大学卒業後、20代は出版社に勤務。30歳で書店員に鞍替えし、東京・千駄木に往来堂書店を開店。その後オンライン書店などを経て、現在は楽天㈱に勤務。仕事と並行して2007年4月に父親支援のＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパンを設立。また週末は“パパ's絵本プロジェクト”のメンバーとして、全国各地で、“パパの出張絵本おはなし会”を開催中。地元小学校のPTA会長も務める。著書多数。

Fathering Japan
http://www.fathering.jp

● 参加者募集 ●

安藤　哲也さんがいわき市に！

男女共同参画基礎講座「働き方を考えるセミナー　～仕事と生活のベストバランス～」の最終回【対談】「笑っている父親になろう～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～」を公開。参加者を募集します。

○と　き　10月14日(日)
　　13:30～15:30
○ところ　生涯学習プラザ
（平字一町目1番地Ｔ１ビル４階）
○内　容
　NPO法人Fathering　Japan代表理事 安藤哲也さんと福島県立医科大学教授 藤野美都子さんとの対談ならびにフロアとの意見交換
○定　員　70人
　託児あり（１歳以上先着15人）
○申し込み締め切り
　10月９日（火）
※申込み・問合せは、男女共同参画センターへ（電話27-8694）

東京発「父親であることを楽しもう！」

ー父親が変われば、家庭や企業、そして社会が変わるー

“仕事と育児を両立し、父親であることを楽しもう！”と特定非営利活動法人（NPO法人）Fathering　Japan（ファザーリング・ジャパン）を今年４月に立ち上げた代表理事の安藤哲也さんに、Wingの編集委員が六本木ヒルズでインタビューをしました。安藤さんの熱いメッセージをいわきの皆さんにお届けします。

ー「Fathering」というのは聞き慣れない言葉ですが、どのような意味で使われているのですか。

「～ing」という進行形で、今、〈父親であることを楽しもう〉ということです。アメリカではキリスト教の中で良妻賢母という意味でMotheringというのはあるのですが、父親に関しての言葉がなかったのでFatheringという言葉を作りました。僕は出版の仕事をしているから言葉にこだわるのですが、「子育て参加」とか「子育て協力」とかのレベルではダメだろうと思うんですね。まして「家族サービス」なんていうのは論外です。〈もっとポジティブに変わろう〉という意味でFatheringという言葉を思いついたんです。“よい父親”ではなく“笑っている父親”を増やしたい、Fatheringが変われば日本が変わるということでFathering Japanなんです。

ー「Fathering Japan」を立ち上げた直接の動機は？

それは、昨年に奈良で起きた放火殺人事件です。あんなバカげた子育てはないし、父親の子育ての最悪の結末ですよ。あの事件を地方の医者という名士の家の事件として対岸の火事のようにマスコミはとらえているけれど、僕は違うと思うんです。このヒルズのお父さん達も同じ意識を持っていますからね。自分の子どもさえ良ければいいし、子どもがいい大学に入って社会的地位を持てれば父親としての子育てを全うできると思っていますから。「それは違うよ。」と僕は言いたかった。自分の子どもを幸せにするためには、周りの子どももハッピーになるような事をやらなきゃ絶対無理なんですよ。でも、悪しきミーイズム（自分本位の生活。自己中心主義。）が蔓延していますからね、塾通いが優先で学校行事さえも成り立たないこともあります。

ー「Fathering Japan」のビジョンは？

僕達の父親の世代の人たちは、高度成長を支えるため仕事一辺倒でやってきて、その時は皆が同じ方向を見ていても仕方がなかったとは思います。でも今の父親たちが仕事ばかりをしているうちに子どもが不登校になったとか、会話もなく困っているとか聞くと、そういうのは嫌だなと思うんです。僕の父親も家父長制度のいわゆる権威主義だったんですが、特におふくろに対して高圧的態度だったのを見ていて嫌だったし、男女の機微だとか男女の愛だとか、うちにはないなあと思っていました。思春期の頃は、早く家を出たかったですね。でも、父親モデルとして相当刷り込まれていますから、普通以上に気をつけているこの僕でも、妻や子どもたちに対して昔の父親と同じように接している自分に気づくと愕然としたりします。たぶんこれは誰しも同じだと思うんですよ。ロールモデル（役割モデル、手本）は基本、自分の父親しか